

オガサワラヤドリキバチ

Orussus boninensis

ハチ目(膜翅目)
ヤドリキバチ科

小笠原諸島

CR

環境省

CR

【形態・生態】

体長 7 mm。体色は黒色で翅は透明、前翅に黒帯がある。脚には黄白色の斑紋がある。頭部、胸部および腹部の先端には金色の被毛がある。小盾板には縦の無点刻部分を欠き、および後方に突出する部分の角度は直角より小さい。枯木の上を歩く個体が観察されており、枯木の中のタマムシやカミキリムシなどの幼虫に寄生すると考えられる。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生息環境】

不明である。林間の立ち枯れした木などに生息すると推測される。

【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

1932 年に 1 ♀、1970 年に 1 ♂が採集されている。グリーンアノールによって捕食され減少していると考えられる。寄主が発生できる立ち枯れした木などを残すことが望ましい。

【関連文献】

Yasumatsu, K., 1954; 小島圭三, 1971.

(執筆: 高橋秀男)

No image

オガサワラセダカヤセバチ

Pristaulacus boninensis

ハチ目(膜翅目)
セダカヤセバチ科

小笠原諸島

NT

環境省

NT

【形態・生態】

体長 7 ~ 14 mm。翅は透明で前翅に褐色斑が 1 つあり、体色は黒色。産卵管は胸腹部の長さにほぼ等しい。ホシセダカヤセバチに似るが、前、中脚と後跗節はオレンジ色により区別される。頭頂後縁はえぐられる。フトガタヒメカミキリ、マルクビヒメカミキリに採食されたモクダチバナ、ソウシジュ、ギンネムの枯木から採集されているので、これらのカミキリムシに寄生すると考えられている。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生息環境】

不明である。林間の枯木などに生息すると推測される。

【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

父島、母島ではグリーンアノールによって捕食され、減少していると考えられる。寄主が発生できる枯木などを残すことが望ましい。

【関連文献】

Konishi, K., 1989; Turrissi, G. F., 2007.

(執筆: 高橋秀男)



所蔵: 神奈川県立生命の星・地球博物館

昆虫類

ハチ目

小笠原諸島

オガサワラコンボウヤセバチ

Gasteruption ogasawarensis

ハチ目(膜翅目)
コンボウヤセバチ科

小笠原諸島

NT

環境省

NT

【形態・生態】

体長約 12 mm。体色は黒色。産卵管は体長より長い。オオコンボウヤセバチに似るが、前、中脚は黄赤色、後跗節に黄白色部があることにより区別される。ノヤシの花にきた記録がある。枯木などに営巣したハナバチ類などに寄生すると推測される。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生息環境】

不明である。林間の枯木などに生息すると推測される。

【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

父島、母島ではグリーンアノールによって捕食され、減少していると考えられる。寄主が発生できる枯木などを残すことが望ましい。

【関連文献】

Watanabe, C., 1934.

(執筆: 高橋秀男)



所蔵: 首都大学東京

和名なし

Paramblynotus nipponensis

ハチ目（膜翅目）
ザイタマバチ科

小笠原諸島

DD

環境省

【形態・生態】

体長 3.3mm。体色は暗褐色。触角は 13 節。前単眼部分は隆起しない。小盾板後方は円い。前翅径室は幅の 3.5 倍の長さである。腹部を側面からみると膨腹部第 4 腹背板が最大の節である。♂は未知である。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生息環境】

不明である。林間の立ち枯れした木などに生息すると推測される。

【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

グリーンアノールによって捕食され減少していると考えられる。寄主と推測される甲虫類が発生できる立ち枯れした木などを残すことが望ましい。

【関連文献】

Liu, Z., et al 2007.

No image

（執筆：高橋秀男）

ヤマモトハネマダラアシブトコバチ

Hockeria yamamotoi

ハチ目（膜翅目）
アシブトコバチ科

小笠原諸島

CR

環境省

【形態・生態】

体長 3.5 ～ 3.9mm。体色は黒色。触角柄節、梗節、第 1、2 鞭節は明赤褐色。翅は基部 1/3 は褐色がかかり、残りの 2/3 は暗褐色で白斑がある。後脚腿節は全体赤褐色のものから黒斑が発達するものまで変異がある。脚脛節は赤褐色（後脛節の一部は狭く暗色）。後脚腿節腹面外縁には丸い突出部が 2 つ認められるが突起はない。前翅の縁紋脈は認められる。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生息環境】

不明である。

【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

父島ではグリーンアノールによって捕食され減少していると考えられる。

【関連文献】

Habu, A., 1976b.



提供：農業環境技術研究所

（執筆：高橋秀男）

ヤマモトアシブトコバチ

Proconura yamamotoi

ハチ目（膜翅目）
アシブトコバチ科

小笠原諸島

NT

環境省

NT

【形態・生態】

体長 2.5 ～ 2.7 mm。体色は黒色。触角は赤褐色。翅は透明で少し曇る。後脚腿節は黒色で先端は赤味がかかる。腹部第 1 腹背板基部に陥没部がある。膨腹部第 2 腹背板後縁の中央はえぐられる。前翅の縁紋脈は短い。クサトベラの花に来るのが観察されている。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生息環境】

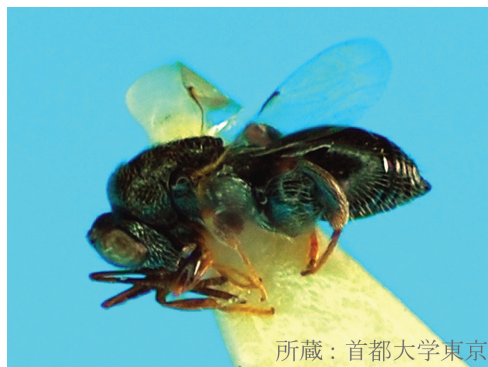
不明である。

【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

父島ではグリーンアノールによって捕食され減少していると考えられる。

【関連文献】

Habu, A., 1976a; Habu, A., 1976b.



所蔵：首都大学東京

（執筆：高橋秀男）

ベニシリアゲコバチ

Leucospis pulcherrima

ハチ目（膜翅目）
シリアゲコバチ科

小笠原諸島 **CR**

環境省

【形態・生態】

体長 6 mm。体色は黒色。前胸背板後縁、小盾板後半、腿節、脛節などに黄色部がある。膨腹部第 2～5 腹背板、第 3～6 腹板に赤色部がある。♀は未知である。本科は、一般的にアナバチ類やハナバチ類に寄生するため、本種の寄主もそれらのハチ類と推測される。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生息環境】

不明である。林間の、寄主が営巣している枯木などに生息すると推測される。

【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

1976 年 6 月に母島で採集された 1 ♀が記録されている。グリーンアノールによって捕食され減少していると考えられる。

【関連文献】

Nagase, H., 2007.



所蔵：国立科学博物館

（執筆：高橋秀男）

オガサワラセイボウ

Chrysis boninensis

ハチ目（膜翅目）
セイボウ科

小笠原諸島 **CR**

環境省

CR

【形態・生態】

体長約 5～7 mm。頭胸部は青緑色。腹部は青緑色で♂では銅金色を帯びる。翅は透明。膨腹部は背面からみて円筒形で側縁はほぼ平行。腹部末端節には歯を持たない。尾端は丸い。オガサワラコハキリバチの巣の近くで観察されており、寄主の可能性はある。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生息環境】

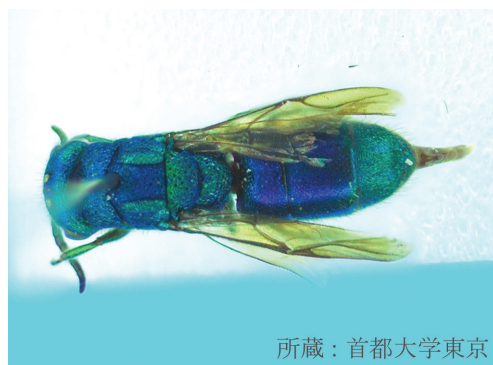
枯木の幹上で観察されている。

【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

グリーンアノールによって捕食され減少していると考えられる。寄主が営巣できる枯木などを残すことが望ましい。

【関連文献】

Tsuneki, K., 1984a.



所蔵：首都大学東京

（執筆：高橋秀男）

ノヒラセイボウ

Chrysis nohirai

ハチ目（膜翅目）
セイボウ科

小笠原諸島 **VU**

環境省

VU

【形態・生態】

体長 6.7 mm。体色は明青緑色。頭盾、体の側面、腹端は金緑色。膨腹部各節の後縁は銅金色。翅は透明。膨腹部は背面からみて円筒形で、側縁はほぼ平行。腹部末端節に 4 歯を持つ。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生息環境】

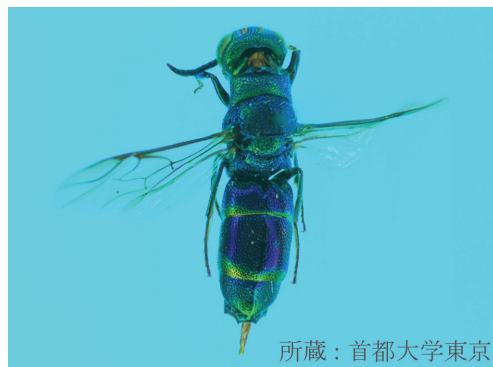
枯木の幹上で観察されている。

【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

グリーンアノールによって捕食され減少していると考えられる。寄主が営巣できる枯木などを残すことが望ましい。

【関連文献】

Tsuneki, K., 1952; Tsuneki, K., 1984a.



所蔵：首都大学東京

（執筆：高橋秀男）

オガサワラハリアリ

Ponera swezeyi

ハチ目(膜翅目)
アリ科

小笠原諸島 DD

環境省

DD

【形態・生態】

体長 2mm 弱、小型のハリアリで、他のハリアリと同様、刺針を有する。体色は黄色、複眼は小さい。中胸背板と中胸側板を分ける縫合線は退化消失している。体表面は点刻が少なく、滑らか。

【分布の概要】

小笠原諸島；ハワイ諸島

【小笠原諸島における生息環境】

小笠原諸島では樹林の林床から採集されている。

【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

近年の調査では確認されていないため、注意が必要である。

【関連文献】

寺山守・長谷川英祐, 1992; 寺山守・久保田敏, 2002.



© 日本産アリ類画像データベース

(執筆: 森英章)

ヤマトカギバラアリ

Proceratium japonicum

ハチ目(膜翅目)
アリ科

小笠原諸島 DD

環境省

DD

【形態・生態】

体長 2.5 mm。湾曲した腹部がカギバラアリ属に特徴的な形態である。体色は黄色から黄褐色。日本産のカギバラアリ属では最も小型の種。頭盾前縁は直線状で、中央が突出することはない。頭部背面正中線には弱い隆起線が走る。触角柄節は短く、頭盾の全長の約 3/4 のところに達する。腹柄節は鱗片状で他種に比べて短く、ほぼ垂直な前後面を持つ。照葉樹林の林床に生息する。

【分布の概要】

小笠原諸島、本州(関東以南)、四国、九州、南西諸島

【小笠原諸島における生息環境】

不明である。他の地域と同様、林内の土壌中に生息すると思われるが、密度は低いと推測される。

【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

記録があるのは母島のみであり、密度は低いと考えられるため、注意が必要である。

【関連文献】

寺山守・久保田敏, 2002.



© 日本産アリ類画像データベース

(執筆: 森英章)

トゲナシアシナガアリ

Aphaenogaster edentula

ハチ目(膜翅目)
アリ科

小笠原諸島 NT

環境省

NT

【形態・生態】

体長 4 ~ 6 mm。体色は黒褐色で、脚、腹柄はより褐色味が強いが、跗節はより淡色。正面から見て頭部後縁は偏平。頭部には単純なしわを持つが光沢はある。中胸側板は強い横しわとそれが分岐したしわおよび点刻に覆われる。前伸腹節刺の発達は悪く、先端は鈍く、一般に長さは基部の幅よりも短い。小笠原において近縁種のイソアシナガアリとは胸部の色の違いで容易に判別できる。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生息環境】

湿った林内の石の下などに営巣する。林床の土壌動物を捕獲するほか、樹木の花外蜜腺やウンカ、カイガラムシの甘露に集まる。

【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

生息が確認された場所は、現時点で母島の3地域と智島であるが、智島は母島と比較して生息密度が低い。智島では樹林が衰退しており、湿った樹林内に生息する本種の生息環境としては悪化していると考えられる。

【関連文献】

寺山守・長谷川英祐, 1992; 寺山守・久保田敏, 2002.



(執筆: 森英章)

セダカウロコアリ

Pyramica hexamera

ハチ目(膜翅目)
アリ科

小笠原諸島



環境省

【形態・生態】

体長 2 mm。体色は黄褐色。腹柄節周辺には他のウロコアリと同様に海綿状の付属物を持つ。頭盾前縁には特殊な体毛はもたない。胸部は側方から見ると背縁がほぼ平ら。照葉樹林の林床の土中に生息するが生息密度は低い。

【分布の概要】

小笠原諸島、本州(関東以南)、四国、九州、南西諸島;韓国、台湾

【小笠原諸島における生息環境】

不明である。他の地域と同様、林床の土中に生息すると思われるが、密度は低いと考えられる。

【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

現在までに生息が確認されたのは父島のみであり、生息環境の悪化や外来種の影響により減少した可能性がある。ただし、近年に調査が実施されておらず、生息状況は不明である。

【関連文献】

寺山守・長谷川英祐, 1992; 寺山守・久保田敏, 2002.

(執筆: 森英章)



© 日本産アリ類画像データベース

オガサワラムネボソアリ

Temnothorax haira

ハチ目(膜翅目)
アリ科

小笠原諸島



環境省



【形態・生態】

体長 2 mm。体色は黄色で、頭部および腹部は褐色。触角柄節は頭部後縁に達する。胸部背縁は緩やかな弧をえがき、後胸溝は刻みつけられない。前伸腹節刺はとげ状であるが比較的長く、側方から見て長さが基部の幅の約 2 倍。腹柄節は短く、丘部は低く明瞭には盛りあがらない。三角形のやや発達した腹柄節下部突起を持つ。コロニーの構成個体数は約 40 個体との観察例がある。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生息環境】

母島では湿潤な樹林内の林床に生息し、朽ち木での営巣が観察されている。

【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

1986 年に兄島で発見された個体が記載されて以来、再発見の記録がなかったが、母島において 2011 年に生息が確認された。

【関連文献】

Terayama, M. & K. Onoyama, 1999; 寺山守・久保田敏, 2002.

(執筆: 森英章)



シワムネボソアリ

Temnothorax santra

ハチ目(膜翅目)
アリ科

小笠原諸島



環境省



【形態・生態】

体長 2.5 mm。体色は黄色で、頭部は胸部や腹部よりも濃色となる。触角柄節は頭部後縁を越える。胸部背縁は弱く弧をえがき、後胸溝は弱く刻みつけられる。前伸腹節刺は比較的短い、基部よりも長さが長く、背縁に鈍い角を持つ。腹柄節は比較的短く、逆U字状となる。中胸から前伸腹節の側面には明瞭な横しわがあり、これが和名の由来である。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生息環境】

不明である。土壌サンプルから採集されていることから、林床中に生息すると思われる。

【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

父島と兄島で土壌サンプルから採集された例のみであり、生息密度は低いと思われる。

【関連文献】

Terayama, M. & K. Onoyama, 1999; 寺山守・久保田敏, 2002.

(執筆: 森英章)



© 日本産アリ類画像データベース

オガサワラムカシアリ

Leptanilla oceanica

ハチ目(膜翅目)
アリ科

小笠原諸島 DD

環境省

DD

【形態・生態】

体長1mm。土壤中に生息する微小種。「ムカシ」との和名だが、原始的ではなく、特殊化したグループである。大顎の歯は3つ。突出する頭盾前縁は日本産ムカシアリ類では独特のものである(他はすべて直線状)。頭部後縁は正面から見て中央部が凹む。主に地中に生息するため、地上で発見されることは稀である。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生息環境】

不明である。他のムカシアリと同様に地中に生息し、地上にはそれほど姿を現さないものと思われる。

【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

1975年に聳島で発見された個体が記載されて以来、再発見の記録がない。唯一記録されている聳島においては、従来の樹林が衰退している。それに伴い本種の生息環境が大きく変化したと考えられる。

【関連文献】

寺山守・長谷川英祐, 1992; 寺山守・久保田敏, 2002.

(執筆: 森英章)



© 日本産アリ類画像データベース

オガサワラアメイロアリ

Paratrechina ogasawarensis

ハチ目(膜翅目)
アリ科

小笠原諸島 *

環境省

【形態・生態】

体長約2mm。頭部と胸部は黄褐色、腹部は黒褐色。頭部と胸部は黄褐色、腹部は黒褐色。前伸腹節背面に立毛はない。ケブカアメイロアリに類似するが、本種の頭部と胸部が黄褐色であることと、中胸背板に2対の立毛を備えることで区別される。小笠原諸島に生息するアメイロアリの中では最も淡色、鮭色に近い。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生息環境】

やや湿った林内に多いが、草地に営巣することもある。樹木や草本の花蜜に集まる。本土に生息するアメイロアリ属とは異なり、やや深い地中に営巣する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

父島列島の樹林内の樹上には、同様のニッチを占めると考えられる外来種アシジロヒラフシアリの大規模なコロニーが多く見られ、本種と競合する可能性がある。

【関連文献】

寺山守・長谷川英祐, 1992; 寺山守・久保田敏, 2002.

(執筆: 森英章)



オガサワラヒゲクモバチ (オガサワラヒゲベッコウ)

Dipogon ogasawarensis

ハチ目(膜翅目)
クモバチ科
(ベッコウバチ科)

小笠原諸島 CR

環境省

【形態・生態】

体長6.6mm。体や脚の大部分は黒色で、光沢がある。翅は透明で淡黄褐色、前翅に不明瞭な狭い2暗帯があり先端近くには白斑がない。頭頂と顔面上部には少数の立毛がある。頭盾下端の縁部はわずかに凹む、その前縁はほとんど裁断状で弧状にえぐられることはない。前伸腹節後側部には横しわと少数の白色立毛がある。この立毛は膨腹部第6背板の剛毛より短い。♂は未発見。6月に採集されている。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生息環境】

不明である。

【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

1976年に1個体の♀が採集されている。グリーンアノールによって捕食され減少していると考えられる。

【関連文献】

Shimizu, A., 2006.

(執筆: 高橋秀男)



所蔵: 国立科学博物館

和名なし

Euodynerus convergens

ハチ目(膜翅目)
スズメバチ科

小笠原諸島 NT

環境省 NT

【形態・生態】

体長約 11 mm。黒色で頭盾、触角柄節下部、前胸背板と中胸背板の 1 対の斑紋、前伸腹節、膨腹部第 1～4 腹背板の後縁、腿節などに黄色部がある。膨腹部第 1、2 腹背板の大部分は赤い。中胸前側板の前腹板溝を欠く。母島産は、前胸背板、中胸背板、前伸腹節、腹背板と脚の黄色部は減退するなどの特徴がある。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生息環境】

不明である。林間や林縁などに生息すると推測される。

【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

グリーンアノールによって捕食され減少していると考えられる。

【関連文献】

Giordani Soika, A., 1995.

No image

(執筆: 高橋秀男)

ツヤカバフドロバチ母島亜種

Pararrhynchium oceanicum miyanoi

ハチ目(膜翅目)
スズメバチ科

小笠原諸島 VU

環境省 VU

【形態・生態】

名義タイプ亜種と比較すると、前胸背板と脚の黄色部は減退する、前伸腹節の陥没部は黒い、膨腹部第 1、2 腹節の赤色部は暗色がかかる、翅はより暗褐色に曇る。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生息環境】

不明である。林間や林縁などに生息すると推測される。

【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

グリーンアノールによって捕食され減少していると考えられる。

【関連文献】

Yamane, S., 1990.



所蔵: 首都大学東京

(執筆: 高橋秀男)

ツヤカバフドロバチ名義タイプ亜種

Pararrhynchium oceanicum oceanicum

ハチ目(膜翅目)
スズメバチ科

小笠原諸島 NT

環境省

【形態・生態】

体長 10～12 mm。カバフドロバチとは、前伸腹節の棚状部と中胸前側板の前腹板溝を欠き、体全体の点刻が弱くつやがあることにより区別される。黒色で頭盾基部、触角孔間、触角柄節下部、前胸背板、中胸背板の 1 対の斑紋、前伸腹節、膨腹部第 1～4 腹背板の後縁、腿節、脛節などに黄色部がある。膨腹部第 1、2 腹背板の大部分は赤い。翅は褐色にくもる。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生息環境】

不明である。林間や林縁などに生息すると推測される。

【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

父島ではグリーンアノールによって捕食され減少していると考えられる。

【関連文献】

Yamane, S., 1990.



© 尾園 暁

(執筆: 高橋秀男)

オガサワラチビドロバチ名義タイプ亜種

Stenodynerus ogasawaraensis ogasawaraensis

※備考 (p. 494)

ハチ目(膜翅目)
スズメバチ科

小笠原諸島

NT

環境省

NT

【形態・生態】

体長 7 ~ 8 mm。日本産の他のチビドロバチ類とは前伸腹節側面の点刻が弱く、♀は頭盾先端の切れ込みが弱い、膨腹部第 1、2 腹背板は赤く後縁に黄帯があることにより区別される。黒色で頭盾、触角柄節下部、前胸背板、前伸腹節、膨腹部第 1 ~ 2 腹背板の後縁、腿節、脛節などに黄色部がある。オガサワラボチョウジの花に來た記録がある。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生息環境】

不明である。林間や林縁などに生息すると推測される。

【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

父島では、グリーンアノールによって捕食され減少していると考えられる。

【関連文献】

Yamane, S. & J. Gusenleitner, 1982; Yamane, S., 1990.

(執筆: 高橋秀男)



所蔵: 神奈川県立生命の星・地球博物館

オガサワラチビドロバチ母島髯島亜種

Stenodynerus ogasawaraensis rufoornatus

※備考 (p. 494)

ハチ目(膜翅目)
スズメバチ科

小笠原諸島

NT

環境省

NT

【形態・生態】

名義タイプ亜種と比較すると、頭盾下部は黒く、前胸背板、小盾板、腿節、後脛節の黄色部は減退する。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生息環境】

不明である。林間や林縁などに生息すると推測される。

【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

母島ではグリーンアノールによって捕食され減少していると考えられる。

【関連文献】

Yamane, S. & T. Tano, 1987; Yamane, S., 1990.

(執筆: 高橋秀男)



所蔵: 神奈川県立生命の星・地球博物館

オガサワラアナバチ

Isodontia boninensis

ハチ目(膜翅目)
アナバチ科

小笠原諸島

VU

環境省

VU

【形態・生態】

体長 14 ~ 15 mm。コクロアナバチに似るが、頭盾およびその上方の毛は金色。体、脚は黒色。翅は透明で、外縁部に淡褐色の帯がある。タイワンソクズの花に來るのが観察されている。類似種の生態から植物体の既存孔に営巣し、直翅類を狩と考えられている。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生息環境】

不明である。林縁などに生息すると推測される。

【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

グリーンアノールによって捕食され減少していると考えられる。

【関連文献】

Tsuneki, K., 1973.



所蔵: 首都大学東京

(執筆: 高橋秀男)

オガサワラマエダテバチ

Psenulus ogasawaranus

ハチ目(膜翅目)
ギングチバチ科

小笠原諸島 NT

環境省 NT

【形態・生態】

体長6～7mm。体色は黒色。前中脚、後脛節とその先端のとげは黄色。キアシマエダテバチに似るが、膨腹部第3背板の基半は立毛がなく光沢があり、後半部は立毛を密に持つ太い立毛帯となることにより区別される。♂の前伸腹節のしわはより粗い。テリハハマボウ、ハマゴウの花に来るのが確認されている。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生息環境】

不明である。林縁などに生息すると推測される。

【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

父島、母島ではグリーンアノールによって捕食され減少していると考えられる。

【関連文献】

Tsuneki, K., 1984a; 寺山守・郷右近勝夫, 2012.



© 尾園 暁

(執筆: 高橋秀男)

オガサワラコオロギバチ

Liris subtessellatus ogasawarae

ハチ目(膜翅目)
ギングチバチ科

小笠原諸島 NT

環境省 NT

【形態・生態】

体長8～13mm。コオロギバチ名義タイプ亜種とは、頭盾の点刻はより細かくまばら、翅の黄色味が少ないこと、♀では第1、2肘横脈が径脈付近で接続する傾向にあることなどにより区別される。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生息環境】

畑地で観察されている。

【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

父島、母島ではグリーンアノールによって捕食され減少していると考えられる。

【関連文献】

Tsuneki, K., 1984a.



所蔵: 神奈川県立生命の星・地球博物館

(執筆: 高橋秀男)

チチジマヌカダカバチ

Tachysphex morosus titidzimaensis

ハチ目(膜翅目)
ギングチバチ科

小笠原諸島 VU

環境省 VU

【形態・生態】

体長5～7mm。体色は黒色。ヌカダカバチに似るが、中胸背板の毛が長いこと、♂の前脚第1跗節に長い剛毛を持つこと、頭盾前縁の形態などにより区別される。前伸腹節側面に明瞭な横じわがある。♀は頭盾前縁に小歯を備えるが、♂では前縁は水平、あるいは広く葉状に突出する。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生息環境】

畑地で観察されている。

【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

グリーンアノールによって捕食され減少していると考えられる。

【関連文献】

Tsuneki, K., 1984a.



所蔵: 首都大学東京

(執筆: 高橋秀男)

ハネダピソン

Pison argentatum hanedai

ハチ目(膜翅目)
ギングチバチ科

小笠原諸島 **CR**

環境省

DD

【形態・生態】

体長 5 mm。体色は黒色。翅は淡褐色。♀の頭盾前縁中央は台形状に突出する。♂の頭盾前縁中央は台形状に突出し、さらに中央に小突起を持つ。触角第3節は第4節よりも短い。第2亜前縁室は大きい(第2反上脈は第1、2肘横脈の間の中脈に接する)。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生息環境】

不明である。枯木の周辺に生息すると推測される。

【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

グリーンアノールによって捕食され減少していると考えられる。営巣可能な枯木を残すことが望ましい。

【関連文献】

Tsuneki, K., 1973; Tsuneki, K., 1984a.



所蔵：首都大学東京

(執筆：高橋秀男)

ハハジマピソン

Pison hahadzimaense

ハチ目(膜翅目)
ギングチバチ科

小笠原諸島 **VU**

環境省

VU

【形態・生態】

体長 6～7 mm。体色は黒色。翅はほぼ透明。♀の頭盾前縁中央は台形状に突出する。♂の頭盾前縁中央は台形状に突出し、さらに中央に小突起を持つ。触角第3節は第4節よりも長い。第2亜前縁室は大きい(第2反上脈は第1、2肘横脈の間の中脈に接する)。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生息環境】

不明である。枯木の周辺に生息すると推測される。

【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

グリーンアノールによって捕食され減少していると考えられる。営巣可能な枯木を残すことが望ましい。

【関連文献】

Tsuneki, K., 1984a.



所蔵：首都大学東京

(執筆：高橋秀男)

和名なし

Pison oakleyi boninense

ハチ目(膜翅目)
ギングチバチ科

小笠原諸島 **CR**

環境省

DD

【形態・生態】

体長 6 mm。体は黒色。頭盾前縁中央は三角形に弱く突出し、先端部はとがる。第2亜前縁室は小さい(第2反上脈は第2肘横脈と接する)。♂は未知である。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生息環境】

不明である。枯木の周辺に生息すると推測される。

【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

1972年8月に父島で採集された1♀が記録されている。グリーンアノールによって捕食され減少していると考えられる。営巣可能な枯木を残すことが望ましい。

【関連文献】

Tsuneki, K., 1973.



(執筆：高橋秀男)

チチジマピソン

Pison tosawai

ハチ目(膜翅目)
ギングチバチ科

小笠原諸島

CR

環境省

CR

【形態・生態】

体長 9.5 ~ 11 mm。体色は黒色。♂の頭盾の前縁中央は四角形状に突出する。♀の頭盾前縁中央は円く突出する。触角第3節は第4節よりも長い。第2亜前縁室は小さい(第2反上脈は第2肘横脈に接する)。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生息環境】

不明である。枯木の周辺に生息すると推測される。

【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

グリーンアノールによって捕食され減少していると考えられる。営巣可能な枯木を残すことが望ましい。

【関連文献】

Yasumatsu, K., 1935; Tsuneki, K., 1984b.

No image

(執筆者: 高橋秀男)

オガサワラヨコバイバチ

Psen boninensis

ハチ目(膜翅目)
ギングチバチ科

小笠原諸島

NT

環境省

NT

【形態・生態】

体長 8 mm。体色は黒い。脚、肩板、触角は栗色、大顎中央部は黄色。大顎は狭く前半部はほぼ平行。触角第6~12節に不明瞭な稜状部がある。触角第3節は最大幅の約3倍。中胸側上部は平滑。腹柄上面正中線は稜とならない。中脚第1跗節は正常。膨腹部第3、4腹面節後縁中央に長毛がある。♀は未発見。6月に採集されている。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生息環境】

不明である。

【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

1976年に父島、2000年に弟島で、それぞれ1♂が採集されている。父島ではグリーンアノールによって捕食され減少していると考えられる。

【関連文献】

Nagase, H., 2000; 長瀬博彦, 2005.



所蔵: 神奈川県立生命の星・地球博物館

(執筆者: 高橋秀男)

チチジマジガバチモドキ

Trypoxylon chichidzimaense

ハチ目(膜翅目)
ギングチバチ科

小笠原諸島

NT

環境省

NT

【形態・生態】

体長 8 ~ 13 mm 前後。体、脚はほとんど黒色。頭盾前縁は黄色味がかる。膨腹部第1腹節は第2、3腹節を合わせた長さよりも長い。前伸腹節の心形域の囲溝は不明瞭。カイガラムシの甘露、シマザクラの花に来るのが観察されている。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生息環境】

不明である。林縁などに生息すると推測される。

【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

父島、母島ではグリーンアノールによって捕食され減少していると考えられる。

【関連文献】

Tsuneki, K., 1973; Tsuneki, K., 1984a.



所蔵: 首都大学東京

(執筆者: 高橋秀男)

オガサワラギングチバチ

Lestica rufigaster

ハチ目(膜翅目)
ギングチバチ科

小笠原諸島 **VU**

環境省

VU

【形態・生態】

体長 6～8 mm。体色は黒色。膨腹部第 1～4 腹節は赤褐色。前胸背板、小盾板、前中脚の腿節、脛節、膨腹部第 1 腹背板などに黄斑がある。類似種の生態から鱗翅類の成虫を狩ると推測される。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生息環境】

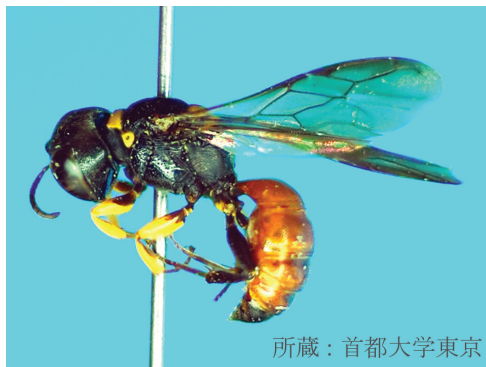
林間の枯木に生息すると推測される。

【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

グリーンアノールによって捕食され減少していると考えられる。営巣可能な枯木を残すことが望ましい。

【関連文献】

Tsuneki, K., 1984a.



所蔵：首都大学東京

(執筆：高橋秀男)

オガサワラスナハキバチ聟島亜種 ※備考 (p.494)

Bembecinus anthracinus mukodzimaensis

ハチ目(膜翅目)
ギングチバチ科

小笠原諸島 **DD**

環境省

【形態・生態】

体長 8～9 mm。体色は黒色。父島母島亜種と比較すると、頭部と脚の黄斑は明るく、体は小型。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生息環境】

海岸の砂地に生息する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

営巣場所の確保が望ましい。

【関連文献】

Tsuneki, K., 1970.



所蔵：神奈川県立生命の星・地球博物館

(執筆：高橋秀男)

オガサワラスナハキバチ父島母島亜種 ※備考 (p.494)

Bembecinus anthracinus ogasawaraensis

ハチ目(膜翅目)
ギングチバチ科

小笠原諸島 **NT**

環境省

NT

【形態・生態】

体長 8～10 mm。体色は黒色。複眼内縁、上唇前縁、触角下面、肩板、脚などに黄褐色ないし褐色部がある。テリハハマボウ、ハマゴウの花、ギンネムの花外蜜腺などに来るのが観察されている。同翅類を狩り、地中に営巣する。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生息環境】

河口や海岸などの砂地に生息する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

父島、母島ではグリーンアノールによって捕食され減少していると考えられる。営巣できる砂地の確保が望ましい。

【関連文献】

Tsuneki, K., 1970.



(執筆：高橋秀男)

イケダメンハナバチ

Hylaeus ikedai

ハチ目（膜翅目）
ムカシハナバチ科

小笠原諸島



環境省



【形態・生態】

体長 5 mm。体色は黒色で、頭盾（♂）、頭盾と複眼に挟まれた部分、触角柄節（♂）、肩板、脚などに黄斑がある。頭部は幅と長さがほぼ等しい。♂の触角柄節は横に広がり扁平である。前胸背板の襟は微毛で覆われる。膨腹部第 1～4 腹背板（♂は第 1～5 腹背板）の後側面には白毛がある。訪花植物は、オガサワラアザミ、ヒメフトモモ、ハマゴウ、テリハハマボウ、オオハマギキョウ、クサトベラ、ヘラナレン、モンパノキの記録がある。広訪花性で、植物体の既存孔に営巣すると考えられている。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生息環境】

主に海岸に生息する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

父島、母島ではグリーンアノールによって捕食され減少していると考えられる。

【関連文献】

Yasumatsu, K., 1936; Ikudome, S., 1989.



© 尾園 暁

（執筆者：高橋秀男）

オガサワラメンハナバチ

Hylaeus boninensis

ハチ目（膜翅目）
ムカシハナバチ科

小笠原諸島



環境省



【形態・生態】

体長 5.5～7 mm。体色は黒色で頭盾、頭盾上域、頭盾と複眼に挟まれた部分、肩板、三角板 (axillae)、脚などに黄斑がある。頭部は前方から見て円くない。胸部は黄色の立毛が密生する。広訪花性で、植物体の既存孔に営巣すると考えられている。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生息環境】

不明である。山地の林縁などに生息すると推測される。

【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

父島、母島ではグリーンアノールによって捕食され減少していると考えられる。

【関連文献】

Yasumatsu, K., 1955; Ikudome, S., 1989.



所蔵：神奈川県立生命の星・地球博物館

（執筆者：高橋秀男）

キムネメンハナバチ

Hylaeus incomitatus

ハチ目（膜翅目）
ムカシハナバチ科

小笠原諸島



環境省



【形態・生態】

体長 4～5 mm。体色は黒色で頭盾（♀では中央下部）、頭盾と複眼に挟まれた部分、前胸背板、肩板、三角板 (axillae)、脚などに黄斑がある。膨腹部は黄褐色。頭部は前方から見て円い。訪花植物は、オガサワラアザミ、ヒメフトモモ、シマザクラ、ノヤシ、オオハマギキョウ、クサトベラ、マルバシマザクラ、タカサゴイチビ、イソマツ、ツルワダン、ヤエヤマアオキ、ヘラナレン、ヒメツバキなど。広訪花性で、植物体の既存孔に営巣すると考えられている。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生息環境】

不明である。山地の林縁などに生息すると推測される。

【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

父島、母島ではグリーンアノールによって捕食され減少していると考えられる。

【関連文献】

Snelling, R. R., 1970; Ikudome, S., 1989.



所蔵：神奈川県立生命の星・地球博物館

（執筆者：高橋秀男）

ヤスマツメンハナバチ

Hylaeus yasumatsui

ハチ目（膜翅目）
ムカシハナバチ科

小笠原諸島

VU

環境省

VU

【形態・生態】

体長 5.5 ～ 6 mm。体は黒色で頭盾、頭盾と複眼に挟まれた部分、前胸背板後縁、肩板、脚などに黄斑がある。頭部は前方から見て丸い。訪花植物は、オガサワラアザミ、センダングサ、シマザクラ、ノヤシ、シャリンバイなど。広訪花性で、植物体の既存孔に営巣すると考えられている。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生息環境】

不明である。山地の林縁などに生息すると推測される。

【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

父島、母島ではグリーンアノールによって捕食され減少していると考えられる。

【関連文献】

Snelling, R. R., 1970; Ikudome, S., 1989.



所蔵：神奈川県立生命の星・地球博物館

（執筆：高橋秀男）

オガサワラキホリハナバチ

Lithurgus ogasawarensis

ハチ目（膜翅目）
ハキリバチ科

小笠原諸島

VU

環境省

VU

【形態・生態】

体長♀ 11 ～ 13 mm。体色は褐色を帯びた黒色。頭頂、中胸側板、中胸背板前縁、脚、腹面の花粉刷毛は黄褐色。腹背板後縁と腹板後縁の狭い毛帯は黄褐色。膨腹部第 6 腹背板には黒褐色の密毛がある。頭頂の点刻は密で接続する。枯木を掘って営巣すると考えられている。訪花植物はテリハハマボウ、オオハマボウ、ハマゴウ、オオバシマムラサキ、モンパノキなどが観察されているが、ハマボウ類の狭訪花性花蜂と考えられている。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生息環境】

不明である。海岸林や山地の樹林に生息すると推測される。

【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

父島、母島ではグリーンアノールによって捕食され減少していると考えられる。営巣可能な枯木と訪花植物を残すことが望ましい。

【関連文献】

Yasumatsu, K., 1955; 郷原匡史, 2002.

（執筆：高橋秀男）



所蔵：神奈川県立生命の星・地球博物館

オガサワラコハキリバチ

Heriades fulvohispidus

ハチ目（膜翅目）
ハキリバチ科

小笠原諸島

VU

環境省

NT

【形態・生態】

体長♀ 4 ～ 6.5 mm。体色は黒色。翅は褐色。頭頂、胸背、腹背板の毛は黄褐色。膨腹部第 1 ～ 5 腹背板後縁に白黄褐色の毛帯があり、第 1、2 腹背板の後半はやや赤褐色を帯びる。頭盾、頭盾上域、中胸背板、中胸側板の点刻は比較的まばら。膨腹部第 1 腹背板は前面と背面の境界に稜がある。♂の膨腹部第 3 腹節以降は腹面方向に曲がる。訪花植物は、ヒメツバキ、ヒメフトモモ、テリハハマボウ、モモタマナ、ヘラナレン、ムニンハナガサノキなど幅広い。枯木の既存孔に営巣すると考えられている。葉を切る習性はない。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生息環境】

不明である。林縁や林間の枯木周辺に生息すると推測される。

【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

父島、母島ではグリーンアノールによって捕食され減少していると考えられる。営巣可能な枯木を残すことが望ましい。

【関連文献】

Yasumatsu, K. & Y. Hirashima, 1952; Sugiura, S. et al., 2007.

（執筆：高橋秀男）



所蔵：神奈川県立生命の星・地球博物館

アサヒナハキリバチ

Megachile asahinai

ハチ目(膜翅目)
ハキリバチ科

小笠原諸島

VU

環境省

VU

【形態・生態】

体長♀ 9～12 mm。体色は黒色。頭胸部の毛は赤褐色。脚、腹背板後縁、花粉刷毛は褐色がかった白色。花粉刷毛後半は赤褐色。頭盾中央および頭盾上域中央に縦の無点刻部がある。頭盾前縁はわずかに突出する。膨腹部腹背板は密に点刻され無点刻部はない。♂の触角末端節は扁平だがほとんど広がらない。訪花植物は、グンバイヒルガオ、ハマゴウ、クサトベラ、ヘラナレン、マルバシマザクラなど幅広い。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生息環境】

主に海岸に生息する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

父島、母島ではグリーンアノールによって捕食され減少していると考えられる。

【関連文献】

Yasumatsu, K., 1955; 郷原匡史, 2002.

(執筆者: 高橋秀男)



所蔵: 神奈川県立生命の星・地球博物館

オガサワラツヤハナバチ

Ceratina boninensis

ハチ目(膜翅目)
ミツバチ科

小笠原諸島

VU

環境省

VU

【形態・生態】

体長 5～7 mm。体色は黒色で、前胸側板の突起はない。♂は後脚腿節に刺状突起を欠き、トゲアシツヤハナバチに似るが、後脚脛節端の被毛状態により区別される。♀は頭盾中央及び前胸背板突出片に白斑があり、トゲアシツヤハナバチに似るが、顔面の点刻が密である。訪花植物は、ムニンヒメツバキ、ヒメフトモモ、グンバイヒルガオ、ハマゴウ、オガサワラボチョウジ、シマザクラ、クサトベラ、ノヤシ、テリハハマボウ、モモタマナ、オオハマギキョウ、オオバシマムラサキ、ヤエヤマアオキ、モンパノキなど幅広い。枯枝の髄質を掘って営巣すると考えられている。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生息環境】

主に海岸に生息する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

父島、母島ではグリーンアノールによって捕食され減少していると考えられる。

【関連文献】

Yasumatsu, K., 1955; 郷原匡史, 2002.

(執筆者: 高橋秀男)



所蔵: 神奈川県立生命の星・地球博物館

オガサワラクマバチ

Xylocopa ogasawarensis

ハチ目(膜翅目)
ミツバチ科

小笠原諸島

NT

環境省

NT

【形態・生態】

体長 25～29 mm。雌雄で色が異なる。体色は黒褐色。翅は紫藍色で不透明。♀は頭部と胸部背面の長毛は黒褐色でまばら。脚と腹面、腹部側面の長毛は赤褐色。♂の毛は黄色で、腹部末端の長毛は赤味がかかる。頭盾は黒い。訪花植物は、ヒメツバキ、クサトベラ、テリハハマボウ、オオハマボウ、グンバイヒルガオ、ヒメフトモモ、ノヤシ、オオバシマムラサキ、ゲットウ、ハマナタマメなど幅広い。また、オオハマギキョウ、ハハジマノボタン、ムニンノボタンは本種が送粉すると推測されている。モクタチバナの枯枝への営巣が観察されている。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生息環境】

林縁、草原や人家周辺でも見られる。

【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

営巣可能な枯木を残すことが望ましい。

【関連文献】

Sakagami, S. F., 1961; Sugiura, S., 2008.

(執筆者: 高橋秀男)



【種名・学名などの準拠文献】

和名、学名、配列は、岸本年郎による小笠原諸島昆虫目録（暫定版 ver.20091201）を基本とし、評価者の判断により修正を加えた。

【備考】 レッドリスト改定時における評価の根拠など補足情報

和名	備考
オガサワラチビドロバチ名義タイプ亜種	環境省版レッドリスト（第3次、第4次）では、オガサワラチビドロバチ <i>S. ogasawaraensis</i> が VU。
オガサワラチビドロバチ母島髯島亜種	
オガサワラスナハキバチ髯島亜種	環境省版第3次レッドリストでは、ムコジマスナハキバチ <i>B. anthracinus</i> が NT であったが、第4次レッドリストではムコジマスナハキバチ <i>B. a. mukodzimaensis</i> が評価対象外、オガサワラスナハキバチ <i>B. a. ogasawaraensis</i> が NT となった。
オガサワラスナハキバチ父島母島亜種	

【留意種とした理由】

和名	留意種とした理由
オガサワラアメイロアリ	父島列島の森林内樹上には、本種と同様のニッチを占めると考えられる外来種アシジロヒラフシアリの大規模なコロニーが多くみられ、競争による影響が懸念されるため留意が必要である。

【関連文献】

- Giordani Soika, A., 1995. Ricerche sistematiche su alcuni generi di Eumenidi della regione orientale e della Papuasias. *Annali del Museo Civico di Storia Naturale Giacomo Doria*, 90: 1-348.
- 郷原匡史, 2002. 小笠原諸島のハナバチ相とその保全. 杉浦直人・伊藤文紀・前田泰生 (編著), ハチとアリの自然史. 北海道大学図書刊行会, 318 pp.
- Habu, A., 1976a. A new species of *Euchalcidia* from the Ogasawaras, Japan, with description of a new genus (Hymenoptera, Chalcididae). *Mushi*, 49(2): 19-23.
- Habu, A., 1976b. Chalcidid flies collected by Mr. H. Yamamoto in the Ogasawaras (Hymenoptera, Chalcididae). *Mushi*, 49(5): 53-61.
- Ikudome, S., 1989. A revision of the family Colletidae of Japan (Hymenoptera: Apoidea). *The Bulletin of the Institute of Minami-kyūshū Regional Science, Kagoshima Women's Junior College*, 5: 43-314.
- 小島圭三, 1971. 小笠原諸島のハチ. げんせい, (22): 17.
- Konishi, K., 1989. A new species of the genus *Pristaulacus* (Hymenoptera, Evaniidae, Aulacidae) from Japan. *Japanese Journal of Entomology*, 57(2): 337-341.
- Liu, Z., F. Ronquist & G. Nordlander, 2007. The cynipoid genus *Paramblynotus*, revision, phylogeny, and historical biogeography (Hymenoptera: Liopteridae). *Bulletin of the American Museum of Natural History*, 304: 1-151.
- Nagase, H., 2000. A new species of the genus *Psen* from the Ogasawara Islands, Japan (Hymenoptera, Sphecidae, Pemphredoninae). *Bulletin of the National Museum of Natural Science Series A*, 26(2): 51-55.
- 長瀬博彦, 2005. オガサワラヨコバイバチ: 2 頭目の記録と変異について. つねきばち, (4): 25-26.
- Nagase, H., 2007. Description of a new species of *Leucospis* (Insecta, Hymenoptera, Leucospidae) from the Ogasawara Islands, Japan. *Bulletin of the National Museum of Natural Science Series A*, 33(1): 41-44.
- Sakagami, S. F., 1961. On the male of *Xylocopa ogasawarensis* Matsumura (Hymenoptera, Apidae). *Insecta Matsumurana*, 24: 115-120.
- Shimizu, A., 2006. Two new species of *Dipogon* (Deuteragenia) (Insecta: Hymenoptera) from subtropical islands of Japan. *Species Diversity*, 11(4): 347-358.
- Snelling, R. R., 1970. The *Hylaeus* of the Bonin Islands, Western Pacific Ocean (Hymenoptera Colletidae). *Bulletin of the Southern California Academy of Sciences*, 69(1): 1-19.
- Sugiura, S., 2008. Male territorial behaviour of the endemic large carpenter bee, *Xylocopa (Koptortosoma) ogasawarensis* (Hymenoptera: Apidae), on the oceanic Ogasawara Islands. *European Journal of Entomology*, 105: 153-157.
- Sugiura, S., T. Abe, Y. Yamaura & S. Makino, 2007. Flower-visiting behavior of male bee is triggered by nectar-feeding insects. *Naturwissenschaften*, 94: 703-707.
- 寺山守・郷右近勝夫, 2012. 日本産有剣膜翅類検索表 10. アリマキバチ亜科 (Pemphredoninae) ヨコバイバチ族 (Psenini) の種の検索. つねきばち, (20): 1-32.
- 寺山守・長谷川英祐, 1992. 小笠原群島のアリ相. 小笠原研究年報, 15: 40-51.
- 寺山守・久保田敏, 2002. 東京都のアリ. 蟻, 26: 1-33.
- Terayama, M & K. Onoyama, 1999. The ant genus *Leptothorax* Mayr (Hymenoptera; Formicidae) in Japan. *Memoirs of the Myrmecological Society of Japan*, 1: 71-97.
- Tsuneki, K., 1952. Two new species of Chrysididae from Japan and Korea. *Insecta Matsumurana*, 18(1/2): 31-33.
- Tsuneki, K., 1970. Two new subspecies of *Bembecinus anthracinus* (Handlirsch, 1892) from the Ogasawara Islands (Hym., Sphecidae, Nyssoninae). *Etizenia*, (47): 1-7.
- Tsuneki, K., 1973. New and the first recorded species and subspecies of Sphecidae and Mutillidae from Japan, with taxonomic notes on some species (Hymenoptera). *Etizenia*, (65): 1-28.
- Tsuneki, K., 1984a. Solitary wasps newly collected in the Ogasawaras or the Bonin Island (Hymenoptera). *Special Publications of the Japan Hymenopterists Association*, (28): 1-11.
- Tsuneki, K., 1984b. Rediscovery of *Pison tosawai* Yasumatsu, with description of the female. *Special Publication of the Japan Hymenopterists Association*, (30): 10-12.
- Turrisi, G. F., 2007. Revision of the Palaearctic species of *Pristaulacus* Kieffer, 1900 (Hymenoptera: Aulacidae). *Zootaxa*, 1433: 1-76.
- Watanabe, C., 1934. On Evaniidae and Gasteruptionidae from Japan (Hymenoptera). *Transactions of the Sapporo Natural History Society*, 13(3): 280-286.
- Yamane, S., 1990. A revision of the Japanese Eumenidae (Hymenoptera: Vespoidea). *Insecta Matsumurana New Series*, 43: 1-189.
- Yamane, S. & J. Gusenleitner, 1982. Die Stenodynerus-Arten Japans (Hymenoptera: Eumenidae). *Report of the Faculty of Science, Kagoshima University (Earth Sciences and Biology)*, 15: 113-127.
- Yamane, S. & T. Tano, 1987. Studies on Japanese Eumenidae (Hymenoptera: Vespoidea). *Transactions of the Shikoku Entomological Society*, 18: 327-345.
- Yasumatsu, K., 1935. The genus *Pison* Spinola of the Japanese Empire (Hymenoptera, Trypoxylonidae). *Annotationes Zoologicae Japonenses*, 15(2): 227-239.
- Yasumatsu, K., 1936. Hymenoptera of the Bonin Islands. *Transactions of the Natural History Society of Formosa*, 26(157): 356-363.
- Yasumatsu, K., 1954. *Orussus boninensis*, a new species of Orussidae from the Bonin Islands. *Insecta Matsumurana*, 18(3/4): 115-118.
- Yasumatsu, K., 1955. On the bee fauna of the Bonin Islands. 日本生物地理学会会報, 16-19: 219-223.
- Yasumatsu, K. & Y. Hirashima, 1952. Two new species of the genus *Heriades* from the North Pacific Islands (Hym., Megachilidae). *Insecta Matsumurana*, 18(1/2): 38-40.